

地歴公民 (世界史)

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

大問単位では、記述式と短文論述を併用する問題が3題、長文論述が1題で例年と同じ。短文論述は9問で昨年とほぼ同量。問題Ⅳの長文論述は昨年同様で350字、指定語句を使わず史料文を用いる問題となった。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

大問は4題、設問別では解答数で、記述式は31問 (語句解答など)、短文論述10問、350字の長文論述が1問。分量的には適当で、難易度も標準レベルの設問が多いので、90分の制限時間で充分解答できるが、大問Ⅳの長文論述は、史料文を読解したうえで答えるので、やや難しいレベルの問題であった。また昨年同様、大問Ⅱは文献資料を引用する出題であった。

出題テーマは、時代的には、今年は例年出題される近現代からの出題がなくなり、4つとも前近代からの出題であった。また、地域別では、昨年と同じく今年は東洋史が1題、西洋史が3題となった。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

例年扱われる中国史が大問で出題されず、近現代の大問もなくなった。

大問Ⅳの長文論述では、史料文を用いる問題が復活した。これは、資料を読み解く力を求める共通テストや新課程の内容を反映していると思われる。この問題のテーマであるアカブルコ貿易は、第2回名大オープン・問題Ⅲで扱われており、模試の復習をした人は、解答しやすかったと思われる。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述式・短文論述	イベリア半島の歴史(先史時代～8世紀)	語句で答える記述式が3つ、短文論述が3つ。基本的事項を問うている設問が多く、教科書を丁寧に学習していればほぼ対応できる。	標準
II	記述式・短文論述	ユーラシアの遊牧国家	文献資料からの引用文に空欄と下線部を設ける形式。空欄補充には文献の文章そのものを答えるものがあり、受験生には答えにくかったと思われる。特にオ・カ・キは、草原の道・オアシスの道・海の道を含めてシルクロードと呼ぶという情報は教科書にほとんどないため、多くの教科書にある天山北路・天山南路・西域南道とした受験生が多いと思われる。後者の答えも史料の文脈上あり得る。	やや難
III	記述式・短文論述	14世紀のキリスト教	空欄補充、関連事項を問う設問で構成される記述式と短文論述。空欄補充・記述式は平易で、短文論述も教科書の記述内容に沿って答えればよい。ただ、問6のルターに関する設問はやや難。	標準

地歴公民^(世界史)

名古屋大学 文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 2 / 2

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
IV	長文論述 (350字)	アカプルコ貿易	大航海時代のスペイン人が著した史料文を使用。史料文を粘り強く読み取っていけば、基本的事項を想起できるように工夫されているが、受験生が苦手とするテーマである。	やや難

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 大問テーマは、例年、西洋史と東洋史から出題され、古代地中海史・中国史・中世ヨーロッパ史・インド史・東南アジア史、アメリカ合衆国史・国際関係史などの出題頻度が高い。
- 難易度としては、一部に難しい設問もあるが、全体には、基本的事項を総合的にとらえる力が試されているので、平易な設問を絶対に落とさない確実な学習が必要である。
- 合否を左右する長文論述問題では、歴史的事象の背景・構造やその因果関係などを問うテーマが多く、普段から世界史を大きな視点からとらえる学習をしていく必要がある。
- まず教科書の記述を丁寧に読み込んで学習することが重要である。その上で過去問をよく研究し、頻出するテーマに対応できる学力を身につけたい。
- 学習の際は、図説・資料集などの写真や史料文にあたって慣れておくことが望ましい。